

みぶりんだより

HP URL



壬生町町民活動支援センター「みぶりん」

2021年2月号 Vol.78



■開館時間

火～金 10時～18時
土・日・祝 10時～17時

■休館日

月曜日・年末・年始

〒321-0214 壬生町大字壬生甲 3843-1
(保健福祉センター内)
電話 0282-21-8731 FAX 0282-21-8732
E-mail: miburin@bz04.plala.or.jp
<http://www.town-mibu.com/miburin/>

★メールアドレスを教えてください、毎月みぶりんだより(カラー版 PDF)をメールでお送りします。

緊急事態宣言に伴いまして、2月7日まで、
保健福祉センターの各部屋の貸出しを停止させていただいています。

コロナ禍において、黒川の「河川環境の保全活動」を考える 黒川ハクチョウの里・有志の会

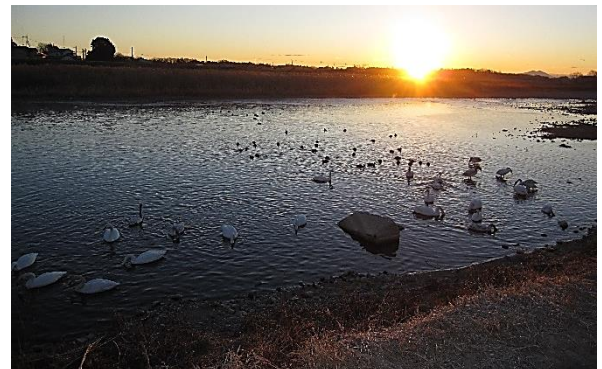
本会の活動エリアは、黒川橋下流の広い河川敷です。夏期は、河川敷のゴミ拾いや草刈などの清掃活動、冬期は白鳥の保護・マナー啓発活動(10月～翌年3月)を中心に行ってきました。愛リバーとちぎの認定団体としてまもなく2年、昨年度の活動が認められ、県と町の連名で以下の看板を設置して頂きました。

愛リバーとちぎ～黒川を未来に引き継ぐ～
「この川は私たちがきれいにしています」
黒川ハクチョウの里・羽生田の会(有志の集い)

近年、白鳥飛来の地としてメディア(新聞、テレビ)に何度か取り上げられたことから、年末年始には白鳥と日の出を見るため、訪れる人が多くなりました。コロナ禍で迎えた今年の正月、広い河川敷には早朝から十台以上の車が並びました。



令和2年 正月の風景



令和3年 正月の風景

早朝の朝霧立つ水面には、白鳥の他にカモなど数種の水鳥が元気に泳いでいます。1月14日現在37羽、コハクチョウとオオハクチョウがそれぞれ半々くらい、灰色の羽根が残った子どもの白鳥もかなりいます。今年は例年にない渇水で黒川の流れがなくなり、たまり水になってしまったため、水面を優雅に泳ぐ白鳥よりも、ガチョウのように愛嬌ある歩き方をする白鳥が目がいけます。

本会は、これまで白鳥を核とした河川環境の保全活動をととして、人々が集える水辺空間の創出を目指してきました。しかし、昨年からの全国的なコロナ禍に見舞われ、栃木県においても緊急事態宣言が発令された状況にあって、本会の活動においても、黒川の河川環境を未来に引き継いでもらえるよう、人と人の繋がり方も含め、将来性のある取り組みとしていく必要があるのではないかと考えています。

- ①地元の人々との交流促進(特に、羽生田、七ツ石、北赤塚の3地区の自治会)
- ②黒川流域の関連機関や諸団体との連携促進(県土木、町、ボランティア団体)
- ③次世代を担う後継者の育成(小学生を対象とした河川環境保全の学習会等) (会員 山名久雄様記)

町民活動支援センターみぶりん 利用について

利用の際は、感染症予防対策をお願いします。

- ・日頃の健康管理(検温の実施)
- ・2、3人程度での入室
- ・手洗いの徹底や手指消毒
- ・マスクの着用・室内の換気

皆様のご協力をお願い致します。

目次

- ①黒川ハクチョウの里・有志の会
- ②県議会が意見書提出の陳情採択(川の日を国民の祝日にしよう会)
第2回安塚駅前広場イルミネーション
- ③太極拳体験講座(太極拳唯心会)
押絵でミニ干支作り(東下台いきいきサロン)
(活動紹介)ボーイスカウト壬生第1団ビーバースカウト隊
- ④手づくり味噌教室/みぶまちこころのホットカフェ
(NPO 法人みぶまち地域活性化21)

「川の日」実現へ一歩 県議会が意見書提出の陳情採択

自然の川には「偉大さ・魅力」と「怖さ・リスク」の二面性があります。

生き物にとって必要不可欠な水が流れている大切な自然の川に対して国民一人一人が感謝し、河川の保護と防災そして治水等に向かってしっかりと向き合い考え直す記念日として、7月7日を国民の祝日にする運動を全国に先駆けて壬生町から発信し続けて来ました。

この間、役員一丸となって“信念”を持って、諦めずに推し進めた活動が理解して頂けたのではないかと心強く感じています。

この県議会採択を自信と勇気に変えて、次なる目標の“県民総決起大会”を開催する等、全国展開に向かって一步一步前進して行きます。

今後ともご支援頂けますよう、宜しくお願い致します。

(川の日を国民の祝日にしよう会 会長 桑原史朗様記)



国民の祝日「川の日」の制定を求める
意見書の審議の様子



佐藤良県議を囲んで

心温まる素敵なイルミネーション 安塚駅前広場イルミネーション 実行委員会

12月18日、昨年から実施し2回目のイルミネーション点灯式が安塚駅前広場で行われました。近隣の住民や駅の利用者の皆さんが見守るなか、点灯の瞬間は美しいイルミネーションに「わあ～！綺麗！」との声があがりました。

今年は駅前広場花壇のイルミネーション以外にもバラのアーチ、ラブチェアー、シトラスリボン等が登場、安塚小学校の児童が手作りで作った装飾もありパワーアップ!!来場者はお気に入りの場所を見つけては写真を撮っていました。

イベントの18日と19日は、お子様にはお菓子和蛍光ブレスレットがプレゼントされ、また温かい飲み物や北研のきのこ等も販売されました。



イルミネーションを見ながら少しでも心が温かくなっていただければと、有志が集まり開催しています。

安塚駅前広場イルミネーションの点灯期間は、毎日午後5時～10時、2月19日(金)迄。ぜひ皆さんご覧になってくださいね！(取材 小田垣)



活動報告

「太極拳体験レッスン」に参加して

12月、3回にわたり太極拳の講習に参加しました。明るい雰囲気の中、私たち参加者は、講師の太極拳唯心会・大根田先生の指導を受けました。

基本から入り、その後太極拳の指導をしていただきました。私はこの3回の講習で得た事はたくさんありますが、真っ直ぐ立つ事の大切さを教わった事が一番の収穫でした。ツボについての教えも受けました。その他にもいろいろとありますが、これからも日々勉強して参りたいと思った講習会でした。

先生、そして私達をサポートしてくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。
(体験講座参加者 鈴木孝男様記)



〈3回コース〉
2020.12月5日・19日・26日開催
保健福祉センターにて
太極拳唯心会主催

押絵でミニ干支(丑)作り 東下台いきいきサロン

12月8日、「東下台いきいきサロン(手塚基二代表)」では、「ミニ干支作り」を開催しました。サロンの会員である手塚様、田代様を講師に、本年の干支の「丑」を「押絵」で作りました。各自用意された材料セットから、布やフェルト等を切り、厚紙にボンドで貼り付けていきます。細かい作業ですが、音楽を流しながらリラックスして楽しく製作をしました。

押絵で干支を作る催しは3回目ですが毎年恒例となっているそうです。目や耳を付ける位置によって顔が少しずつ違い、皆それぞれ、オリジナルの「丑」が出来上がりました。

(取材 小田垣)

▶完成した
押絵の「丑」



活動紹介

ボーイスカウト壬生第1団ビーバースカウト隊

小学校1年生から
入れるよ!

いつでも見学に
来て下さい!



ボーイスカウトビーバー隊は、自然の中でみんなと仲良く元気に遊ぶを基本に、小学一・二年生が月1・2回、様々な楽しい活動を行っています。

12月20日には、一つのツリーにスカウト達が自分で考え作成した飾りを付け、大きなクリスマスツリーを完成させました。

コロナ禍の中で、家の中だけではなく、思いきり子供達が遊べる活動を行っていますので、一緒に体験をしてはいかがでしょうか。

(ビーバースカウト副長記)

活動報告

特定非営利活動法人みぶまち地域活性化 21

①3日間の工程で作った手づくり味噌が楽しみ

12月18日から20日までの3日間、壬生町ふれあい女性センターにおいて、特定非営利活動法人みぶまち地域活性化21（大橋良平理事長）では、伝統的な食文化として伝わってきた大豆と米麴を使って作る「手づくり味噌教室」を開催いたしました。

参加者の皆さんは、麴菌が醸し出す米麴の自然の造形や、味噌作りの工程に驚きと感動を味わいました。

1日目は、米麴を造るために前日から浸した米を持ち込み、ふかした米に麴菌を加え醗酵させる作業を行いました。2日目は、水に浸しておいた大豆をふかしチョッパーにかけミンチ状にしておきます。3日目は、大豆に二日間醗酵させた米麴と塩を加えて味噌樽に詰める作業を行いました。



今では、健康食品としても見直されてきた味噌ですが、壬生町など各地方では昔から家庭で味噌づくりが行われていて、それぞれの家庭の味として伝えられてきました。

参加者は1年後に熟成する自分の手作り味噌を今から楽しみにしていました。（会員記）

②「みぶまちこころのホットカフェ」～SDGs 誰一人取り残さない～



特定非営利活動法人みぶまち地域活性化21（大橋良平理事長）では、中央共同募金会の「赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン 居場所を失った人への緊急活動応援」に賛同し、コロナ禍により生活に不安を感じたり、地域交流ができなくなったりする人たちのための居場所「こころのホットカフェ」を開設しました。場所は国谷駅前通りにある当法人事務所です。同法人と民生委員・主任児童委員などが支援相談員を担当。支援体制には町健康福祉課や町教育委員会、町社会福祉協議会との連携もとれるように工夫しました。

初日の1月3日には早速地域の子どもたちが冬休みのワークブックを持ち寄り主任児童委員の方々から学習支援を受けていました。カフェは12月までの毎月第1第3日曜日午前10時から12時、午後6時から8時まで開いています。誰でも立ち寄れる場所です。お気軽にお越しください。

問い合わせは事務局（玉田 080-1006-9236）までお願いします。

☆「みぶりんだより」は下記のところに置いています☆

みぶりん・保健福祉センター・壬生町役場・各出張所・各コミュニティセンター・各公民館・生涯学習館・図書館・歴史民俗資料館・体育館・みらい館・おもちゃ博物館・嘉陽が丘ふれあい広場・ふれあい交流館・シルバー人材センター・各小中学校・壬生高校

【編集後記】 ■コロナ禍により居場所を失った人々に対する支援活動が必要な時代になりました。国連による「持続可能な開発目標」（SDGs）の理念である「誰一人取り残さない（leave no one behind）」社会を皆さんと一緒に築いていきたいと考えています。（玉田） ■緊急事態宣言により、みぶりんだよりのネタになるような活動も少なくなり、今後紙面の構成に苦慮しそうです。お知らせ、活動紹介など、みぶりんだよりに載せたい内容がございましたら連絡ください。必要に応じ取材に伺います。（鈴木） ■「義母と娘のブルース」というドラマを知っていますか？年末年始にテレビの一挙放送で観ましたが、とても感動して泣いてしまいました。何度観ても面白くココロ温まる物語です。（小田垣） ■日本各地の美しい風景写真を撮られている伊藤仁一様から、今年もみぶりに写真入りカレンダーを頂きました。見ていただけ心が癒されます。（柴田）